

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい 西・東ユニット		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成29年3月23日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2278200155-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成 29年 4月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームで、笑いが絶えない居心地の良い場所創りを心掛けています。
また、地域との交流が年々深まっており、年齢に関係なく、地域の方が声を掛けて下さるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の事業所として、運営推進会議にシニアサロンやふれあい交流会を取り入れている。2地区の高齢者と体操やゲーム・カラオケ・習字等の交流を継続し、地元の子供会と夏の平日に低学年は親同伴でのふれあい交流会を開催している。お年寄りの特性や職員の対応法などを説明し、車椅子体験と一緒に体操やおやつ作りをして、その後の夏祭りに来た子供が利用者に会いに来ている。今年度は子供会役員から、予め行事に入れたいと問い合わせが来ている。1日の流れは決められた予定に沿って全員が行うのではなく、好きな時間に起きて起きた人から朝食にするなど、個別的な状態や希望に合わせてゆったりと穏やかに過ごせる支援をしている。併設の小規模の職員と各ユニットの職員が協力し合い、利用者が理念に基づいた安心・安全にあきのこない暮らしが出来るように支援をしてい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内各所に掲示して、いつでも目にする事ができます。また、日常の話し合いの時など、理念に基づいて話し、実践につなげられるようにしています。	開設から10年経ち法人理念を継承し、推進会議の議事録に毎回掲載して外部にも周知している。地域に根付いた事業所として、地域コミュニケーション会合(シニアサロン・子供会等)を継続している。理念に沿わない対応を見たときは管理者が個別に職員に話をして実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回新聞を、同地区と隣地区に回覧してもらっています。また、子供会、敬老会、市内の女性の会の方達との交流を持ち、地域の一員として交流をさせていただいています。	2地区に回覧している事業所の新聞に、推進会議の議事録のまとめを掲載している。中高生の職場体験を受け入れ、夏休みの子供交流会に参加した子供達が、施設の祭りに来所した時に2階の利用者に会いに来ている。近隣住民から野菜のおすそ分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加する運営推進会議で、現状報告と共に認知症の方への理解を深めています。また、地域の敬老会の行事に毎月参加させていただいたり、夏祭りに地域の方に来ていただいたりして、関わりを持ってもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の様々な方に参加して頂き、意見を頂いたり、相談をうけたりし、その内容をサービス向上に活かせるようにしています。	2ヶ月に1度、地域住民と利用者が交流するサロンや子供会との交流会を推進会議とし、行政・包括・民生委員・2地区住民の参加があり、意見を聞いている。4月に地域密着型サービスとしての活動計画を作成している。家族の参加はないが、案内を出し議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の行事や会議などには、市担当者に参加要請をしています。サービス内容について意見や助言を頂いたりしています。	事業所の祭りの行事や会議への案内を出し、参加を依頼している。包括職員・市福祉課から空情報や受け入れ相談がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体が身体拘束ゼロ宣言をしている事を理解し、身体拘束をしないケアをしています。	2階の各フロアに通じる扉は自由に出入りできる。利用者が不穏になるには理由があると、個別に思いや状態を把握し、拘束のない寄り添った支援をしている。職員が1階に行く際に外に出たがっている利用者で行き1階の小規模多機能型事業所で違う人と話すことで気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話を個々にしたり、ミーティングなどで全体に話し、意見交換などをし、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があるご利用者に支援しており、また、いつでも支援できる体制をとれるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解りやすい説明を心掛け、一つずつ確認しながら進めています。また、質問などがあつた場合には、理解し納得して頂けるよう説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのお誘いや、事業所入口にご意見箱の設置をしています。また、面会に来られた時や、電話などで意見や要望を聞き、サービスに反映出来るように、努めています。	利用者から身の回りの品を買いたいや食べたい物の要望があり、直ぐではないが時間を見て答えている。家族に送る新聞に日頃の様子をコメントし、来られない家族には状況変化や日常の様子を電話で伝えている。面会時には話をして意見を聞いているが、特に要望は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員への声掛けをし、意見や提案がないか聞いています。また、話しやすい体制を心掛け、職員が意見や提案を言いやすい体制をとっています。	全体ミーティングは不定期だが、毎日申し送り後にミニミーティングをして意見を聞いている。管理者は個別に話す機会を作っている。ワックス掛け・水拭きモップなどの掃除便利グッズや上まで浸かれる足浴用具の購入希望が叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人をよく理解し、見てくれており、常に声掛けをしてくれます。職員の話聞き、アドバイスをしたり、ねぎらいややりがいをもち、向上心を持って働けるよう努めて来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内がくれば進めてくれたり、職員が参加したい研修などがあれば、研修費を補助してくれたり研修に行きやすい状態をつくってくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着部会に参加し、交流を図り、訪問したりしてネットワーク作りをし、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、要望に応えられるよう寄り添い、細かく観察をし、小さな異変を見落とさず、声掛けし、安心して生活が出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望をよく聞き、本人の意向や要望にも沿ったうえで、施設側が出来ること出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識が持てるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状態、環境などを理解し、その時、その人に合った支援を提案し、本人、家族が必要とするサービスが利用出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、同じ食事を摂り、入居者様に寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族と施設は「一つのチーム」として考えている事を話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るようにしており、日頃の生活の中で来訪者の話をしたり、昔の話を聞いたりして思い出してもらおうなどしています。また、地域行事に参加したりして、関係性が途切れないように努めています。	利用者あてに電話が掛かると取次ぎ、手紙は代筆をしている。同じ化粧品を継続して購入し使用している人や、読み慣れた新聞の購読継続を支援している。地域のシニアサロンや交流会で顔見知りができたり、小規模の利用者や職員と馴染みの関係になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、人間性を把握し、全員が一体感を持って、安心して安全に暮らせるように職員が架け橋となるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時、「いつでも相談があれば相談してください。」と、必ず伝え、相談があった時には出来る限りの対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者様との会話の中で、希望や要望、意向を聞き出せるように努めています。困難な場合には、日頃の本人の様子から気持ちをくみ取り、検討しています。	聞いた言葉は伝言メモをとり、記録を職員で共有している。発語が困難な人に「寒いのでは」と裏起毛の服を用意したり、「行きたくない」の返事でも「行けば喜ぶのでは」と、何にでも理由を考えて思いを把握するようにしている。職員を代えて対応することで安心して落ち着いた状態になる人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報提供をしてもらい、また本人の話の聞いたりして、一人一人のこれまでの暮らしを把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で状態変化があった時などは申し送り、毎日目を通す申し送りノートにも記入し、全員が状態把握をするように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的や状態が著しく変わった時など、必要に応じて話し合いをし、様々な方向から意見やアイデアを出してもらい、現状に即した介護計画を立て、支援出来るように努めています。	本人・家族の意見は聞いた言葉をそのまま記録し、全職員が「ケアプラン検討個表」に利用者の状態を記入している。ケアマネが事業所独自の計画書の2表「課題整理総括表」に健康状態・ADL・IADLの評価・判断した根拠・予後予測・ニーズを落とし込み現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動など、支援に必要なキーワードは記録し、職員全員が共有できるようにし、実践や、計画見直しに活かせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に応じて柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に出かけたり、外食をする事もあります。また、近くを散歩したり、公園に散歩に出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を希望され利用される方が多いが、今までのかかりつけ医を継続して利用されています。	以前からのかかりつけ医に家族と受診、協力医に職員と受診、また、座位が保てない利用者には往診がある。他科受診は家族が対応し、車椅子の人は事業所の車で職員が家族と病院で待ち合わせて受診している。ケアマネジャーや看護師と連携し、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師にいつでも連絡がとれる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の正確な状態把握に努め、入院した際には正確な情報をスムーズに提供出来るようにしています。また、病院の相談室を通し関係作りにも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態の著しい変化があった時や、終末期に近いと思われるご家族とは、今後の方針について話し合いをし、協力医にも関わってもらい支援に取り組んでいます。	水・食事の摂取量が減り点滴も入らなくなって家族と話し合い、医師の判断で看取りに入り最期を迎えた人がいた。点滴以外の医療行為がなければ、医師の判断に家族と事業所3者で話し合い方針を決める。家族の協力が得られれば看取りを行うようになっている。家族の意向の同意書は、入所後何度も取り直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行ってはませんが、職員の入れ替わりや、前回の訓練や講習からの時期を見計らって行っています。今年度、AED講習を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年間2回行っており、消防署と地域の防災委員に声掛けをし行っています。また、津波災害の危険がある為、ライフジャケット、ヘルメット着用の訓練をしています。	10月に地震・津波を想定した訓練を行い、11月は厨房からの火災を夜間想定で行っている。訓練はデイ・小規模と合同で地域住民の参加もあり、地区防災委員は施設内の見学を行っている。地域には災害時の高齢者受け入れの声かけをしている。備蓄品は1階に用意されている。	事業所の立地を考慮した津波時の備蓄品の保管や避難方法など、日常的に災害に対する意識を高める取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添ったケアをすることで、人格を尊重し、プライバシーを守る声掛けをしています。	管理者は職員に、トイレ介助時や入室時の対応などを「自分だったらどうだろうか」と考え接し、プライバシーに配慮して人格を尊重した対応をしてほしいと伝えている。不適切な対応を見たときは、その都度注意している。方言を上手に使うと相手は喜ぶ言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状態に合わせて、オープンエスチョンとクローズドエスチョンを使い分け、なるべく自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっていますが、一人一人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回床屋さんに来ていただいており、希望通りに散髪、顔剃りをして身だしなみを整えています。また、今まで使用していた化粧品を継続して使われている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で、同じ物を食し、話をしながら楽しく美味しく食事が出来るように努めています。	利用者に食べたい物を聞き、季節の行事食で提供している。寿司の希望が多く、海苔巻きや握り寿司を口にしやすい形状にして提供している。調理専門職員が調理した物を、職員が当番制で刻みやとろみ等食べやすい形態にしている。家族と外食に行けない人と個別で外食に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、必要量摂れているかを確認し、対応しています。また、一人一人に合わせた食事形態で提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛け、介助を行っています が、毎食できない方もおり、夕食後に重点を置いて行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄が出来る方はいないため、排泄パターンを把握し、誘導・声掛け・見守りにて支援しています。	体温や水分摂取量の把握や表情の変化を見逃さず、タイミングを見て声掛けしトイレでの排泄ができるよう支援している。自宅ではパット使用の習慣がなくなりハビリパンツの使用量が多かった人が、上手に使用することでリハビリパンツの量が減ってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で、野菜を多く取り入れたり、体操や、歩行運動などを行い、便秘予防に取り組んでいます。また、ヨーグルトを作り、おやつに食べて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度の入浴となっておりますが、入浴が好きな方や、その日の状況で続けて入浴される方もいます。	予定はあるが利用者の職員指名や時間帯の希望に合わせ、臨機応変に職員の入浴当番を変更して対応している。2人介助の人も浴槽に浸かれる支援をしている。日曜日にデイの炭酸泉に行くのを楽しみにしている人もいる。拒む人には職員や時間を代えて対応し概ね週2～3回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をしていただいたり、夜の入床時間も一人一人の生活リズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りの服薬介助を行っています。通院後の記録を確認する事で薬の変更など把握し、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来ることを役割とし、行って頂いたくことで、出来る力の維持を兼ねての支援をしています。また、嗜好品などの買い物や、出かける事で気分転換や楽しみを作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って出かけられるよう支援していますが、希望のその日に出かけられない時は話し合い、日にちを決めてでかかっています。	天候を見て散歩に出かけている。行きたい場所の希望を聞いてもあまり出てこないが、テレビを見ていて聞いた言葉を話題にしておやつを買いに行くことがある。小規模の外出に同行して出かけている。フロアから続くテラスは広く日当たりが良く、洗濯を干したり外気浴ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設が管理していますが、本人の希望があり、家族の同意の上でいくらかを本人管理とし、その中で買い物もされる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人が電話をかけたり、電話口に出てもらい家族や知人と話ができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドの調整をする事で、自然な光が入るようにしています。寒い時には、日が当たる南側にソファや椅子を持っていき、ひなたっぽっこが出来るようにしています。	共用空間は物を置かず、動線を確保してすっきりとしている。天窓を開けて換気し、ブラインドで採光を調整している。温湿度・清潔に気を配る対応で、今年度はノロ・インフルエンザの感染症は出ていない。壁には職員が中心になり、利用者も手伝って作成した色鮮やかな干支の酉や季節の花等立体的な作品が多数掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を行う時には、みなさんとテーブルを囲んだりして時間を共有したり、自由に居室で過ごしたりして頂いています。それぞれ思い思いに過ごして頂けるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震の関係上、重いたんすなどの持ち込みは遠慮して頂いておりますが、長年使い慣れた馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く安心して過ごせるよう支援しています。	危険防止に配慮し物を置かないようにしている部屋もあるが、鏡台や机・椅子など馴染みの物の持ち込みや、孫や夫の写真を壁に貼ったり、その人の状態や思いに沿った居室作りをしている。入室して直ぐの壁に手すりがあり、転倒防止に役立っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるよう、障害物をなるべく取り除いています。また、手すりを使って安全に歩行出来るように常に見守り介助をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい 西・東ユニット		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成29年3月23日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2278200155-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	4月 4日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームで、笑いが絶えない居心地の良い場所創りを心掛けています。
また、地域との交流が年々深まっており、年齢に関係なく、地域の方が声を掛けて下さるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内各所に掲示して、いつでも目にする事ができます。また、日常の話し合いの時など、理念に基づいて話し、実践につなげられるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回新聞を、同地区と隣地区に回覧してもらっています。また、子供会、敬老会、市内の女性の会の方達との交流を持ち、地域の一員として交流をさせていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加する運営推進会議で、現状報告と共に認知症の方への理解を深めています。また、地域の敬老会の行事に毎月参加させて頂いたり、夏祭りに地域の方に来ていただいたりして、関わりを持ってもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の様々な方に参加して頂き、意見を頂いたり、相談をうけたりし、その内容をサービス向上に活かせるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の行事や会議などには、市担当者に参加要請をしています。サービス内容について意見や助言を頂いたりしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体が身体拘束ゼロ宣言をしている事を理解し、身体拘束をしないケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話を個々にしたり、ミーティングなどで全体に話をし、意見交換などをし、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があるご利用者に支援しており、また、いつでも支援できる体制をとれるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解りやすい説明を心掛け、一つずつ確認しながら進めています。また、質問などがあつた場合には、理解し納得して頂けるよう説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのお誘いや、事業所入口にご意見箱の設置をしています。また、面会に来られた時や、電話などで意見や要望を聞き、サービスに反映出来るように、努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員への声掛けをし、意見や提案がないか聞いています。また、話しやすい体制を心掛け、職員が意見や提案を言いやすい体制をとっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人をよく理解し、見てくれており、常に声掛けをしてくれます。職員の話の聞き、アドバイスをしたり、ねぎらいややりがいをもち、向上心を持って働けるよう努めて来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内がくれば進めてくれたり、職員が参加したい研修などがあれば、研修費を補助してくれたり研修に行きやすい状態をつくってくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着部会に参加し、交流を図り、訪問したりしてネットワーク作りをし、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、要望に応えられるよう寄り添い、細かく観察をし、小さな異変を見落とさず、声掛けし、安心して生活が出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望をよく聞き、本人の意向や要望にも沿ったうえで、施設側が出来ること出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識が持てるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状態、環境などを理解し、その時、その人に合った支援を提案し、本人、家族が必要とするサービスが利用出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、同じ食事を摂り、入居者様に寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族と施設は「一つのチーム」として考えている事を話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るようにしており、日頃の生活の中で来訪者の話をしたり、昔の話を聞いたりして思い出してもらうなどしています。また、地域行事に参加したりして、関係性が途切れないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、人間性を把握し、全員が一体感を持って、安心して安全に暮らせるように職員が架け橋となるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時、「いつでも相談があれば相談してください。」と、必ず伝え、相談があった時には出来る限りの対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者様との会話の中で、希望や要望、意向を聞き出せるように努めています。困難な場合には、日頃の本人の様子から気持ちをくみ取り、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報提供をしてもらい、また本人の話を聞いたりして、一人一人のこれまでの暮らしを把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で状態変化があった時などは申し送り、毎日目を通す申し送りノートにも記入し、全員が状態把握をするように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的や状態が著しく変わった時など、必要に応じて話し合いをし、様々な方向から意見やアイデアを出してもらい、現状に即した介護計画を立て、支援出来るように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動など、支援に必要なキーワードは記録し、職員全員が共有できるようにし、実践や、計画見直しに活かせるように努めています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に応じて柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に出かけたり、外食をする事もあります。また、近くを散歩したり、公園に散歩に出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を希望され利用される方が多いが、今までのかかりつけ医を継続して利用されています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師にいつでも連絡がとれる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の正確な状態把握に努め、入院した際には正確な情報をスムーズに提供出来るようにしています。また、病院の相談室を通し関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態の著しい変化があった時や、終末期に近いと思われるご家族とは、今後の方針について話し合いをし、協力医にも関わってもらい支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っては行ませんが、職員の入れ替わりや、前回の訓練や講習からの時期を見計らって行っています。今年度、AED講習を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年間2回行っており、消防署と地域の防災委員に声掛けをし行っています。また、津波災害の危険がある為、ライフジャケット、ヘルメット着用の訓練をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添ったケアをすることで、人格を尊重し、プライバシーを守る声掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状態に合わせて、オープンエスチョンとクローズドエスチョンを使い分け、なるべく自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっていますが、一人一人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回床屋さんに来ていただき、希望通りに散髪、顔剃りをして身だしなみを整えています。また、今まで使用していた化粧品を継続して使われている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で、同じ物を食し、話をしながら楽しく美味しく食事が出来るように努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、必要量摂れているかを確認し、対応しています。また、一人一人に合わせた食事形態で提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛け、介助を行っています が、毎食できない方もおり、夕食後に重点を置いて行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄が出来る方はいないため、排泄パターンを把握し、誘導・声掛け・見守りにて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で、野菜を多く取り入れたり、体操や、歩行運動などを行い、便秘予防に取り組んでいます。また、ヨーグルトを作り、おやつに食べて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度の入浴となっておりますが、入浴が好きな方や、その日の状況で続けて入浴される方もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をしていただいたり、夜の入床時間も一人一人の生活リズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りの服薬介助を行っています。通院後の記録を確認する事で薬の変更など把握し、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来ることを役割とし、行って頂いただくことで、出来る力の維持を兼ねての支援をしています。また、嗜好品などの買い物や、出かける事で気分転換や楽しみを作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って出かけられるよう支援していますが、希望のその日に出かけられない時は話し合い、日にちを決めてでかかっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設が管理していますが、本人の希望があり、家族の同意の上でいくらかを本人管理とし、その中で買い物もされる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人が電話をかけたり、電話口に出てもらい家族や知人と話ができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドの調整をする事で、自然な光が入るようにしています。寒い時には、日が当たる南側にソファや椅子を持っていき、ひなたぼっこができるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を行う時には、みなさんとテーブルを囲んだりして時間を共有したり、自由に居室で過ごしたりして頂いています。それぞれ思い思いに過ごして頂けるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震の関係上、重いたんすなどの持ち込みは遠慮して頂いておりますが、長年使い慣れた馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く安心して過ごせるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるよう、障害物をなるべく取り除いています。また、手すりを使って安全に歩行出来るように常に見守り介助をしています。		

目標達成計画

作成日：平成 29 年 4 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	基本的に防災訓練は年2回行っているが、その他の訓練としては、ライフジャケット着用訓練を時々行う程度。	もう少し頻繁に、訓練になるような事を行う。	レクリエーションを兼ねて、もう少し頻繁に非常口への移動など、訓練に繋がる事をしていく。	3ヶ月
2	35	備蓄品が1階にあり、水害時に使えない可能性がある。	水害時の備蓄品の確保をする。	2階廊下のスペースを使い備蓄品を確保する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。